



中小路 良輔



2007年 全日本カート選手権
東西統一戦
レースレポート

2007年11月4日 **SUN**

全日本カート選手権 東西統一戦

ICA Class

開催地 : 鈴鹿サーキット 国際南コース

<http://www.mobilityland.co.jp/suzuka/>

ゼ ッ ケ ン : 24
フ レ ー ム : KOSMIC T11
エ ン ジ ン : VORTEX RVA
タ イ ヤ : DUNLOP DCS
チ ー ム : KOSMIC R.T.J
エ ン ジ ニ ア : 桑山 たかはる
ア ド バ イ ザ ー : 山田 淳平
メ カ ニ ッ ク : 中小路 秀春
ド ラ イ バ ー : 中小路 良輔



11月2日(金)【コースイン・前日練習】

とうとう鈴鹿までやってきました。日曜日の決勝でチャンピオンになれるか決まると思うと、ドキドキしてきます。現在、シリーズポイントランキングは、自分が総合でトップなのですが、すごく僅差なので誰がチャンピオンをとってもおかしくない状況です。チャンピオンに一番近いからといって、自分にプレッシャーを掛けないように、周りからのプレッシャーにつぶされないように、常にいつも以上に頭を使って考え、落ち着いてレースをする。そして勝つ。

今回の鈴鹿では、タイムスケジュールがいつもと違い、土曜日にタイムトライアルを行う。その為、セッティングなどは、金曜日にほとんど決めておかないといけない。練習を始めて、調子がどんどん上がってきて、午後からフレッシュタイヤを使い最後の調整をしようと思っていたのですが、思ったようにペースが上がらない。何故だろう。中古タイヤとフレッシュタイヤの違いは、グリップ力。確かに車は、重くなる。でも何故、出口もずっと重くなるのか……。入り口の速度が低く、コーナリングの速度が足りないのか……。色々考え、2度目のフレッシュタイヤを使った時は、そこそこタイムも出せて、今日の練習を終えました。



11月3日(土)【タイムトライアル】

今日は、午後からタイムトライアルがあります。参加台数が34台もいると、タイムトライアルでのミスは、まずい。気を引き締めて、タイムトライアルに臨みました。10分間のタイムトライアルが始まり、単独でアタックに入りました。やはり路面は、昨日よりもグリップをされていて、車が重く感じます。でも、車が重くて駄目だなんて言われてられない。今、出来る限りの力を出すことに集中しよう。結果は、Bグループの5番手。A・Bを合わせると11番手。すごく微妙な順位です。でも、ポイントランキング上位の選手達も中盤にいたので、予選・決勝で絶対に上まで行ってやる！！



11月4日(日)【レース当日 予選・決勝】

今日は、午前中に練習が一回で、午後に予選・決勝となっていて、時間がすごく空くスケジュールでした。その空いている時間に、どうして中古タイヤは、抜群に速いのに、フレッシュタイヤを使うと速く走れないのか、他の選手の車や乗り方を見たりして、ずっと考えていて、解決策を思いつきました。今のセッティングは、今年ずっと試してきて一番良くて、今回のレースも、このセッティングが一番だと思っていました。ですが東西統一戦は、参加台数が今までのレースよりも倍以上。そして皆、ハイグリップタイヤを使っている。絶対に今まで以上に路面は、グリップしている。当然のように車は、重くなり曲がらなくなる。ならば、曲がるセッティングにしなければいけないと思いました。

予選ヒート 14Lap

セッティングを替えて挑んだ予選ヒート。11番手からなので、スタートがポイント。絶対にクラッシュしてはいけないけど、出来るだけ順位を上げてみせる！！レースがスタートして、1コーナー・2コーナーとクリアし、7番手まで上がりました。スタートが上手く決まり、一周目が終わる頃に、セッティングが当たったことが車から感じ取れました。良く曲がる。これならいける。どんどん順位を上げていき、3番手までポジションアップしました。前の選手達とのペースは、同じ。抜けるけど、抜き返されるだろうと思いました。ここで考えたのが【決勝ヒートでのスタートグリッドの位置】です。有利なのは、アウト側。1番か3番。2番は、絶対にスタートで抜かれると考え、3番手でポジションキープをして、ゴールしました。



決勝ヒート 24Lap

ポイントランキング上位の選手は、ほとんど下位に沈んだからか、スタートグリッドについた時に、あまり緊張やプレッシャーは、ありませんでした。今の順位でゴールすればチャンピオン獲得。でもチャンピオンばかり考えていてもレースは、上手いかなと思う。いつも通りにレースをする！！

スタートは、イメージしていた通りに決まり、2番手にポジションを上げ、ここからがレース。序盤は、とりあえず1番手について行く。このまま2番手で、レース終盤までいけたらいいと考えていたのですが当然のように上手いかず、3番手が迫ってくる。このままでは、自分が順位を落とすと思い、1番手を抜きにかかりました。でも、すぐに次のコーナーで抜き返してくる。それを2回ほど繰り返し、3番手も、もう真後ろまで来ていて「う～ん、どうしよう」と考えていた時、ストレートで、1番手のエンジンが壊れました。すごくピッタリとくっついていたので、本当にギリギリ。避ける方向を間違えたら終わっていた…。そして、1番手に上がりました。よし、逃げ切るぞ！！ペースを上げようとしたのですが少ししか上がらない。キャブレターを絞って、エンジンを回せばもっとペースは、上がるけれど、エンジンの壊れるリスクを上げることは、出来なかった。そして、レース中盤で抜かれてしまいました。この時には、トップ2台が独走をしていたので、レースの展開的には、すごく楽になりました。このままいけばチャンピオンを獲れる。でも、このレースに勝ってチャンピオンを決めたい！！リスクのある抜き方は、出来ないけれど、相手にスキがあれば絶対に抜いてやる。レース終盤で、1番手のペースは、そのまま。でも、自分のペースが少し落ちてきました。「絶対に負けられない」と食らい付いていきますが、ついていくのが精一杯。最後まで、仕掛けることが出来ず、チェッカーを受けました。



レースが終わって・・・

なんとか、2007年のシリーズチャンピオンを獲得することが出来ました。チャンピオンは、すごく嬉しいですが、やっぱり最後は、優勝でチャンピオンを決めたかったです。

今回は、やはりタイムトライアルで上位にいけなかった事。そして上位にいけなかったから予選で順位を上げる為、タイヤをいたわずに、ペースを上げて走らなければいけなかった事。それが勝てなかった原因の一つだと思います。レースの駆け引きは、周りに負けていない。自分に足りない『そこ』を克服すれば、もっと強いドライバーになれると思います。来年は、もっとすごいドライバーになります。

今年一年を振り返って・・・

開幕戦で優勝した時、今年目標である【全日本チャンピオン】は、すぐそこにある。すぐ手に入ると思っていました。ですが、レースを重ねるにつれ、自分の思っていた以上に『自分の甘さ』『チャンピオンの遠さ』を感じました。ドライバーとして、まだまだ未熟だなと感じました。

第2戦・第3戦と思うような結果を得られず、もう後がない状況に。『絶対に勝ちたい！勝つ！！』と思って挑んだ第4戦。やっと手に入れた2勝目です。第5戦は、トラブルがあったけれど決勝で追い上げ、ランキングトップで鈴鹿に行きました。東西統一戦、今年最後のレース。このレースで、チャンピオンが決まる。失敗は、出来ない中に自分の力を出し切り、念願のチャンピオンを獲得することが出来ました。

今年一年で、『勝ちたい』ではなく『勝つ』という気持ちへの変化。自分への甘さをなくしたことが【全日本チャンピオン】につながったのではないかと思います。そして何よりも心強かったのは『応援・サポートしていただいた皆さん』です。一緒に勝利を目指してくれた方々の応援。上手いかない時は、支えてくれて、緊張している時は、ピットのムードを変えてくれていたサポートの方々。これは、大きかったと思います。僕は、この一年間で大きく成長させていただきました。皆さんの応援・支えがあってこそ獲得できたチャンピオンです。



本当に、どうもありがとうございました。

来年は、もっとスキルを上げ、さらに強くなれるよう、これまで以上に頑張ります。

中小路 良輔

ICAクラス

■開催日:11月4日 ■天候:晴れ ■路面状態:ドライ

■開催コース:鈴鹿サーキット国際南コース(三重県) ■参加台:30台

全日本選手権ICA 正式結果表

POS	No	DRIVER	TYPE	ENGINE	TIRE	TT	予	TEAM
1	16	福田 浩之	birel	TM	DL	A2	4	M-BIT・ドリーム・HKC
2	24	中小路 良輔	KOSMIC	VORTEX	DL	B4	3	KOSMIC RTJ
3	26	前原 佳明	birel	TM	DL	A5	10	チーム エッフェガーラ
4	31	中村 純	birel	TM	DL	A4	2	ハラダカートクラブ
5	20	綿谷 浩明	TONY KART	VORTEX	DL	A10	28	SPS川口
6	32	中村 ひかる	TONY KART	TM	DL	A7	9	チーム オーガスト
7	10	堀 直高	TONY KART	TM	DL	A1	21	A project RT
8	19	松崎 俊祐	INTREPID	TM	DL	A9	12	INTREPID JAPAN
9	23	黒岩 敏行	ZANARDI	TM	DL	A3	5	K.SPEED WIN
10	13	兵藤 克之	FA KART	TM	DL	B14	17	Est-TT with HKC
11	15	平山 直弥	TONY KART	VORTEX	DL	B6	25	レーヴRT
12	30	神田 真臣	TONY KART	VORTEX	DL	B9	8	A・S・R sportiva
13	18	岡山 丞乃臣	TONY KART	TM	DL	B3	20	FIOREモータースポーツ
14	27	大倉 一真	birel	TM	DL	B5	24	カートガレージクラッシュメイト
15	9	梅原 卓稔	TONY KART	VORTEX	DL	B13	14	マキシマテクニカルスポーツ
16	38	對尾 孝太郎	TONY KART	VORTEX	DL	A8	27	KEIN'S
17	22	宮城島 裕人	TONY KART	VORTEX	DL	A15	11	SUGIYAMA RACING
18	21	高塩 紀光	TOPKART	TM	DL	B10	29	A PROJECT RT
19	14	中島 基	TRULLI	VORTEX	DL	A14	23	Tech Miyazawa
20	35	小河 涼	TONY KART	VORTEX	DL	A11	13	Sugiyama Racing
21	33	伊藤 光	FA KART	VORTEX	DL	B11	16	ハラダカートクラブ
22	28	藤井 駿	birel	TM	DL	B12	30	KART KOZO R
23	40	津下 未来	ZANARDI	TM	DL	A13	18	チームミヨシ
24	11	吉田 明生	TONY KART	TM	DL	A16	15	nuova kart
25	37	佐藤 晃一	KOSMIC	VORTEX	DL	B8	26	J-BLOOD
26	34	沼島 吟	TONY KART	TM	DL	A12	19	チームストレガ
27	17	飯島 宗一郎	birel	TM	DL	A6	7	まえだ眼科&パドローネRT
28	29	土井 勝利	ZANARDI	TM	DL	B1	1	K.SPEED WIN
29	12	宇井 健剛	birel	TM	DL	B7	6	チーム近藤レーシング
30	36	三村 壮太郎	TONY KART	TM	DL	B2	22	K.SPEED WIN

[ICA部門]

順位	地域	ドライバー	第1戦	第2戦	第3戦	第4戦	第5戦	最終戦	合計得点	有効得点 ベスト4戦
1	東	中小路 良輔	25		18	25	22	33	123	105
2	東	福田 浩之	22	20		14		37.5	93.5	93.5
3	西	松崎 俊祐	18		25	25	20	19.5	107.5	89.5
4	東	綿谷 浩明		22	25		14	24	85	85
5	東	飯島 宗一郎	20	18	22	20	16		96	80
6	西	大倉 一真			22	22	25	10.5	79.5	79.5
7	東	前原 佳明				22	25	30	77	77
8	西	堀 直高	13			20	22	21	76	76
9	東	中村 純		25		16		27	68	68
10	東	平山 直弥		15	20	18		15	68	68
11	西	中島 基	15	16	15	16			62	62
12	西	神田 真臣	14	18			16	13.5	61.5	61.5
13	西	吉田 明生	22		20	18			60	60
14	東	中村 ひかる	16				20	22.5	58.5	58.5
15	西	宮城島 裕人		25	18		15		58	58
16	西	岡山 丞乃臣	25	20				12	57	57
17	西	兵藤 克之	20	15				16.5	51.5	51.5
18	東	土井 勝利	18		16		15		49	49
19	東	梅原 卓稔	15	16				9	40	40
20	東	黒岩 敏行					18	18	36	36
21	東	高塩 紀光	14		14				28	28
22	西	宇井 健剛		22					22	22
23	西	高橋 潤悟					18		18	18
24	西	周山 智寿			16				16	16
24	西	伊藤 光	16						16	16
26	東	沼島 吟				15			15	15
26	東	早崎 友哉			15				15	15
28	西	堀田 裕和			14				14	14
29	東	小河 諒					13		13	13
29	東	三村 壮太郎	13						13	13